

Mifa



MIFA NEWS

No. 47

9/30. 2007

Moriya International Friendship Association

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1
電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/~mifa>

日本が失ってしまったもの それは **たくさんの愛**



西尾直美さんは現職の中学校英語教師。青年海外協力隊の現職参加で2年間、ドミニカ共和国に行ってきました。

派遣されたことで多くのことを学び、持ち帰ってくれました。その成果はNHKで放映されたり、国会議員を前に経験を披露したこともあります。講演会の一部を紹介します。

私は、茨城県青年海外協力隊を育てる会総会で帰国報告をしたことで、TV出演したり、国会議員の前で協力隊の経験話をしました。その中で私は、「協力隊の現職参加教員は、今の学校現場にとってプラスになる。日本と海外の教育現場の両方を教師という立場で知っているのは私たちだけです。日本の教育のすばらしさを伝え、日本が直面する深刻な教育問題の解決にアイデアを模索したり、世界に誇る教育として向上するための施策を提言できるのも、私たち現職参加教員ではないですか」という提言をさせていただきました。

ドミニカ共和国には、14歳でも繰り下がりのある引き算ができない子がいます。私が赴任したときに現地の先生方から言われたのは、「子どもたちが買い物に行ってもおつりをだまされないように教育してほしい。これが切実な願いだ」ということでした。

私はドミニカ共和国にいながら、常に日本にいる私の教え子のことを考えていたような気がします。常に日本のことを考えていました。日本って何なんだろうと。その時間はすごく大事で、帰国後、私が何をやるかが大事。そのための2年間だったと感じています。

(2面に続く)

2007年4月～8月の主な事業

- 3.28～4. 6 マインブルク市市民訪問団来市
- 4.10 MIFAニュースレターNo46配布
- 4.21 JICA筑波国際センター一般公開参加
- 4.22 守谷市国際交流協会理事会
- 5. 9 日本語講座講師講習会
- 5.16 第34回外国人のための日本語講座
- 5.27 2007年度MIFA総会
- 6. 3 開発教育WG勉強会
- 6. 9 守谷市青少年海外派遣事前研修参加

- 6.19～25 グリーリー市高校生来市
- 6.24 グリーリー市高校生・青年交流委員会ボウリング交流会/フェアウェルパーティー
- 7. 8 開発教育WG勉強会
- 7.27 つくば市市民研修センター・中山悟氏来訪
- 7.18 外国人のための日本語講座修了式
- 7.28・29 JICA研修員ホームステイ
- 8.18・19 北守谷地区夏まつり出店
- 8.25・26 きらめき守谷 夢彩都フェスタ2007出店

私が強く思ったことは、日本の子どもたちはすごい。何がすごいのか。それは皆さんなら当たり前を感じることでした。朝、登校したら生徒は机に座っています。全校集会をやったら整列できています。エンピツをちゃんと削ってきます。日本だったらそれができない子は、ダメな子。と言われることが、世界的に見たら素晴らしいことなんですね。日本の学習指導要領は、北海道から沖縄まで行渡っていて、どこに住もうと子どもはある程度一定の教育を受けることができます。日本の教育って素晴らしいですよ。日本の子どもたちの能力、すごいです。中学生で掛け算九九ができない子はいないですから、本当にすごいと思います。

だけどもう一つ、ドミニカ共和国の子どももすごいです。子どもは柔軟なんです。もしがしたら遊び方は日本の子どもたちより上手です。日本の子どもたちは今、室内で遊ぶことが好きですけど、外で遊びを見つけて自分たちで仲良く遊ぶ能力は、ドミニカ共和国の子どもたちのほうが上手かもしれません。では、大人になってから先進国と途上国の違いって、やはり教育なんですね。私たち日本の大人とドミニカ共和国の大人は問題こそ違えども、いろんな教育に対する責任を負っているんじゃないかなというのが率直な感想です。ドミニカ共和国で教育に関して何を学んだかというところ、こちら = **たくさんの愛 - もっと純粋に思いを込めて 子どもたちを愛してあげないといけません** = なんです。

結局、私は2年間ボランティアをして、彼らに何かをしているつもりでいながら、実は、自分のために大事なものを得させてもらった2年間だったと思いま

す。ドミニカ共和国で何を教わったのかって、「日本人、これ、足りないですよ」ということ。形に見えないものなので、うまく表現できませんが、感じるものはありませんか？「ドミニカ共和国には何もなければいけないけれど、これだけはある。日本はなくしてしまったんじゃないの？」。これは本当にきつい言葉でした。

ボランティアという言葉の語源（自由意志を意味するラテン語から、喜びや精神を意味する言葉が生まれ「volunteer」になった）には、誰かのために何かをするという意味はまったくないんです。誰かに何かをしてあげるとか、助けてあげようという精神を培う活動を意味してはいないんです。ボランティアというのは、自分の意思で自分が喜ぶためにやることなんですね。アメリカで子どもたちにボランティア活動を義務づけている学校では、「ボランティアをすることによって、子どもたちが誰かの役に立っていると実感する。それによって子どもたちが自分に自信をつけることが目的」だと明言しています。日本では「誰かに役立つ行動をしろ」というニュアンスが非常に強いと思うんですけど、そうではなくて、自分がやりたいと思ったことで、それが「自分の自信や喜び」につながれば、立派なボランティアなんだよ、ということなんですね。

日本の教育現場に復帰した今は、海外の子どもたちにも目を向けながら、現職参加教員の、私は個人的に「JOVC教師」と名付けましたが、ネットワーク作りを模索しています。

子どもたちの笑顔をみるために、これからも皆さまと一緒に頑張っていきたいと思えます。

MIFA総会2007



5月27日、ログハウスで2007年度守谷市国際交流協会総会が行なわれました。

主催者として小川会長は、これまでMIFAが行なってきた活動が、実は、任意の団体とは思えないほど素晴らしい活動であったこと。それは、他の国際交流協会が

視察に来たり、国際協力事業団が活動を評価し表彰していることにも現れていること。来年は20周年記念の年であり、その記念事業を検討していることなど、新しい年度に向けてあいさつしました。

西尾先生の言葉にあるように、ボランティアは自分のための活動の場でもあります。会員のより一層の参加をお願いします。

2007年度予算（収入）

科目	予算額(円)	備考
会費及び補助金	2,370,000	年会費/守谷市国際交流基金から
事業収入	1,265,000	事業への参加費など
雑入	17,000	預金利子など
繰越金	378,891	前年度繰越金
合計	4,030,891	

2007年度予算（支出）

科目	予算額(円)	備考
事業費	2,999,000	各専門委員会事業
旅費	100,000	交通費
役員費	74,000	保険料
事務費	459,000	事務用品・郵送料
慶弔費	10,000	
備品購入費	20,000	
繰出金	210,000	周年・記念事業準備基金など
予備費	158,891	
合計	4,030,891	

マインブルク市民が来市



4月1日、「マインブルク市民とMIFA交流会」が開かれ、6人のマインブルクの方が参加されました。

当日は岩井市にある茨城自然博物館や市内にある正安寺を訪れた後、ログハウスでMIFA会員と書道、折り紙、お琴の文化に触れました。書道では、自分の名前や国名など簡単な漢字を書いたり、折り紙では雛人形を折ったりしました。

また、お茶の時間には桜茶と桜餅をお出ししました

が、ドイツでは甘い豆類は一切食べないとのこと。でも、全員が残さず食べてくれてうれしく思いました。

お琴の演奏も、国際交流員のリッヒターさんが艶やかな着物姿で演奏を披露すると大きな拍手がわき起りました。

前日の3月31日には、高齢者が多いことに配慮し、はとバスを利用した東京観光（東京今昔物語）を行いました。皇居前広場、浅草観音と仲見世、お台場などを案内し、昼食をはさみ交流を深めました。



グリーリー市高校生と ボウリング交流

6月24日、来市しているグリーリー市高校生と青年交流委員会とのボウリング大会が、フジ取手ボウルで行なわれました。ボウリングの後はバイキング料理で交流会が行なわれ、若者同士親睦を深めることができました。普段委員会に顔を出さない委員も多く集まり、

これを機会にその人たちを含め、より多い参加者でいろいろな行事に参加し、盛り上げたいと思いました。



アンケート回答（一部抜粋）

- 1ゲームは少なかったと思った。
- 大会前に自己紹介を行なうなど、事前の準備が行なわれていればゲストもよりスムーズに入り込めたと思われる。
- 市内の学生と交流する機会は貴重でいいことだと思う。特に守谷の学生にとって、英語を話す良いチャンスなので、これからも行なってほしい。
- 段取りが悪いように感じた。集金は、事前事後で良いのでは？ 配車も事前に段取りが必要。
- 時間がたくさん余ってしまったのが残念。
- 若者の交流の機会は、あったほうが良い。
- 盛り上がって良かった。



JICA 筑波一般公開



4月21日、つくば市にある国際協力機構筑波国際センターで、科学技術週間にあわせ施設の一般公開が行なわれ、守谷市国際交流協会も出展しました。

協会の活動紹介をメインに、ラオス民芸品の販売を行ない、また、他の団体、機関の方たちの活動を見たりするなど今後の活動に参考になった一日でした。

北守谷地区 夏まつりに出店



8月18日、19日の二日間、北守谷地区夏まつりに協会のPRを兼ねて出店しました。

当日は、連日の猛暑の中、今年マイナブルクに派遣された学生もインターハイ出場のため欠席した一人を除き全員が参加してくれました。

これからの活躍が期待されます。



JICA研修員 ホームステイ



7月28日、29日に、毎年恒例のJICA研修員ホームステイが行なわれました。

今年は、八坂神社の夏祭りに合わせて企画され、6人の研修員（メキシコ、コンゴ、ザンビア、アフガニスタン、ブータン、バングラデシュ）を招いて、アサヒビール工場見学など、楽しい一時を過ごしました。

広報やMIFAのお知らせでホストファミリーを募集しても、応募者が少ないのが現状です。日本にいられている外国の方に日本を紹介したり相手の国の様子を聞くことができる良い機会、そういった機会を求めている方も多くははずです。応募された方の感想を聞くと「満足した」との回答が多く寄せられています。

次回は抽選になるくらいの応募を期待しています。

きらめき守谷夢彩都で MIFAの活動を紹介



8月25日、26日に行なわれた「きらめき守谷夢彩都フェスタ2007」。

MIFAは会員募集のため、ブースを出しました。また、少し時期的には早すぎた（遅すぎた）感もありましたが、ラオス民芸品の販売も行ないました。